

## 《審判上の確認事項》

(令和3年度沖縄県スポーツ少年団バレーボール交流大会)

沖縄県小学生バレーボール連盟 審判委員会

2021 年度公益財団法人日本バレーボール協会の定める6人制競技規則により実施する。但し、別に定める小学生バレーボール競技規則を用いる。また、本大会はテクニカルタイムアウトを採用する。第1・2セットにおいて、どちらかのチームが11点に達した時点及び第3セットは、8点で副審の吹笛により30秒の給水時間をとる。

- (1) トスは、両チームのチームキャプテンが立ち会い、試合開始11分前に記録席前で行う。
- (2) 公式練習は、エントリーされたメンバー以外は、認められない。
- (3) 子どもたちの善い行いに対してはフェアプレー精神の育成のため、積極的にグリーンカードを出して下さい。
- (4) モップ、チームの荷物等は安全のためにベンチ裏、又はいすの下に置く。スペースが無ければベンチ横でも良いが、ベンチとの間を空けずに置く。
- (5) 監督はベンチでは記録席に最も近いところに位置し、指定されたフリーゾーン内ならば一時的にベンチを離れてコート上の選手に指示を与えても良い(過度な応援やパフォーマンスは許可されない)。ただし、サーブ許可の吹笛後は速やかにベンチに着席し、ラリー中は座っておかなければならない。
- (6) 選手の健康と安全に配慮しテクニカルタイムアウト(給水の為のタイムアウト)時は、ベンチ横で必ず選手全員に給水をさせること。
- (7) タイムアウトの要求には必ずハンドシグナルを用いること。また、競技者の交代については、交代競技者がサブスティチューションゾーンに入り、片手をあげ速やかに交代を行うこと。
- (8) ラリー中は交代競技者はベンチ横に着席するか、ウォームアップエリアがある場合はそこに位置していること。
- (9) 審判に対する質問はゲームキャプテンのみに認められる権利である。
- (10) 競技者のアンダーウェア着用は禁止する。(沖縄県大会ではりゅうぎん・選抜大会で可能)  
※ベンチスタッフはアンダーウェアの着用は認めない。
- (11) 反スポーツマン的行為や言動に対しては厳正に処理する。(退場・失格)
- (12) フロアモッピングは、コート内の選手が小さなタオルを身につけ、選手自身が行うことを原則とする。汗でぬれた場合コートの選手が拭くこと。ただし、当該審判員の指示によりベンチの交代競技者がモップを使用することがある。(選手やベンチスタッフが、モップの要求を当該審判員にすることは、遅延行為の対象となることがある。)
- (13) 可能な限りコントローラーを指名配置するので、打合せ、反省を綿密に行って下さい。  
主審は試合の最終決定者である。(主審は判定、取り扱い等の疑義等について、主審の判断でコントローラー、副審判長、審判長の意見を聞く事を許可する。)
- (14) 審判を行う際は審判服を着用しなければならない。自チームで審判(主審・副審)、補助員ができること。記録用の筆記用具は自チームで準備すること。
- (15) コロナ感染拡大防止に伴う処置。(日小連 審判委員会 審判ガイドラインより抜粋)
  - ① 審判を行うチームは必ずマスクを持参(不織布マスクを推進)、ゴム手袋(ビニール手袋可)を着用する。試合終了後、審判台・記録席・得点掲示椅子・ラインフラグを消毒し拭き取り、手指の消毒を行う。また、記録席の筆記用具は各チームで準備すること。
  - ② 審判(主審・副審)のホイッスルは、ホイッスルカバーを取り付けて使用すること。不織布マスクを着用し、1試合ごとにマスク交換すること。各自で除菌シート等を活用しホイッスルを洗浄、消毒すること。  
※電子ホイッスルの使用を可能とするが、会場により音が聞き取りにくい場合があるため、ホイッスルカバーを取り付けたホイッスルを使用することが望ましい。  
(主審・副審の不織布マスク、ゴム手袋、消毒用アルコールは各チームで準備をお願いいたします。)

大会開催期間：令和3年11月27日(土)・28日(日)